

鹿大広報

No.156

April/2001

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会



特集：“21世紀を担う”

<http://www.kagoshima-u.ac.jp/>

目次

特集 21世紀を担う

21世紀初頭の新生に期待すること	学長 田中 弘允	3
大学で何を学ぶのか	副学長 萬田 正治	4
異なるものを大切にしよう	共通教育委員会委員長 山原 芳樹	5
大学と出口問題	法文学部長 辰村 康	6
21世紀に活躍する諸君へ	教育学部長 坂尾 隆	7
思索の面白さと実践の楽しさ	理学部長 井上 政義	8
21世紀を担う新生の諸君へ	医学部長 永田 行博	9
新生諸君へ(ちょっと辛口の祝辞).....	歯学部長 大工原 恭	10
工学部および理工学研究科に入学される皆様へ	工学部長 矢野 利明	11
新生への歓迎と期待	農学部長 西中川 駿	12
21世紀は君らの出番	水産学部長 上田 耕平	13
Welcome to Rendai!!	連合農学研究科長 荒井 啓	14
保健管理センターから新生の皆さんへ 保健管理センター所長	前田 芳夫	15
知的生活のために		
より良い情報の選択と活用を	附属図書館長 中山 右尚	16
鹿児島大学国際化を進める	留学生センター長 土田 充義	17

特別寄稿

若人は化ける	運営諮問会議委員長 立川 涼	18
「苦学」・・・郡司先生のこと.....	運営諮問会議委員 大園 純也	19

第2回鹿児島大学運営諮問会議

学内だより

随 想	権利と義務と自由な心	工学部 吉原 進	24
留学生日記	若林ひろ子・唐 一瑛・梶原 真理		25
研究室紹介	法文学部「システム設計研究室(下園ゼミ)」.....		26
	教育学部「障害児教育学科」		26
サークル紹介	柔道部、邦楽部		27
新任教官紹介			29
保 健			30
図書館だより			31
行事予定			32
編集後記			32

表紙デザイン

21世紀最初の入学、新しい世界への夢と希望を色と形で表現した。

教育学部 助教授 美術教育講座 小江 和樹



21世紀初頭の新入生に期待すること

学 長 田中 弘允

新入生の皆様、ようこそ鹿児島大学へ入学して下さいました。私どもは皆様を鹿児島大学キャンパスの主人公としてお迎えます。

さて皆様は、21世紀の最初の年に鹿児島大学に入学することになりました。ここで鹿児島大学生となったことの意味を考えてみましょう。一般に大学は最高学府と言われていた通り、小中高校を経て大学で終わる学業の最終段階であります。学問の内容はより深く、かつ幅広く、人類の知的財産のすべての知識、技能に関係します。それに加えて、学生は様々なことについて思考することを学ばなければなりません。実社会で遭遇する諸問題は必ずしも単純ではなく、しかも正解が複数であるかあるいは不明な場合が多いと言えます。これらの問題の解決には、知識だけでは不十分であります。大切なのは、自らの頭脳でとことん考えることを学ぶことでもあります。パスカルは「人間は考える葦である」というすばらしい言葉を残しました。人間は自然に比べるとちっぽけな葦のようにか弱いものであるが、考えるということは人間しかできないのであります。皆様は大学生としてこのすばらしい行為を学ばなければなりません。

しかしながら、もっと大切なことはこれらの学業を始めるに当たって、あるいは学業に励みつつ、自らが鹿児島大学に入学した目的は何かを真剣に考えるということでもあります。鹿児島大学を卒業すれば、次は社会人として自立して実社会で生活し活躍しなければなりません。人は皆、人生の目標を立てその実現に励むものです。鹿児島大学での貴重な青春の時期を如何に過ごすかは、鹿児島大学での目標を設定することに深く関わっています。鹿児島大学での目標が明確となっておれば、内なる自己から発したものに基いて学業に真剣に取り組むことになるでしょう。皆様の無限の才能を今こそ発掘し磨きをかけようではありませんか。

それでは次に本学で学ぶ上で役立つと思われるいくつかの点についてふれてみましょう。本学は、3つのキャンパスをもっていますが、いずれも人口55万人を擁する鹿児島

市のほぼ中央にあり、市民との交流にも便利です。それぞれには南国らしい自然が存在しており、図書館、運動場などがあります。また学内LANを通じて多方向性情報交換が可能となっています。日本では本学だけがもっている方法として、BBC、CNN放送を学内LANを通してすべての人が常時視聴することができます。

新入生は入学当初から8学部のいずれかに所属し、一定の学業を修めれば学士号を得て卒業することができます。学業には、共通教育科目と専門教育科目とがあります。前者には教養科目、外国語科目、情報科学科目、体育健康科目があり、幅広い教養や豊かな人間性を養う上で極めて重要です。専門教育科目は皆様がより深く勉強することを希望する専門領域であります。いずれも一定の成績を得なければなりません。実際には勉強してみると「知」のすばらしさに惹かれ興味深いものばかりであります。多くの人間には得手不得手があり、いわゆる数学や理科を苦手とする人や人文社会学を苦手とする人がいます。苦手意識には何もやってみないでそう思いこんでいる場合も多いものです。共通教育科目では、すべての学問領域について誰にでも分かり易く、皆で考えるような授業を提供するように工夫されています。ですから、人文社会学を専門科目とする学生は、教養科目の自然科学系の科目を、また自然科学を専門科目とする学生は、教養科目の人文社会学の科目をバランス良く履修することを強くお勧めします。

キャンパスライフで重要なものに課外活動があります。本学にはサークル活動・クラブ活動があり、スポーツ、文化活動、社会活動、ボランティア活動を行うことができます。これらの諸活動こそ学生の自発的活動をして高く評価されるべきものであります。これらに参加することによって、勇気・元気、心身の鍛練、すばらしい人間関係、広い視野が得られます。いろいろなことに積極的に挑戦してみてください。

自分の好きなことができる時間は、一生のうちで大学生時代が最も長いのであります。人生には時が過ぎて初めて気がつくことが多いのですが、後悔しないためには先輩の忠告や読書が役に立つものです。鹿児島大学における貴重なキャンパスライフが、皆様の人生にとって有意義なものとなることを期待いたします。



大学で何を学ぶのか

副学長（教育担当） 萬田 正治

2001年という新世紀の初頭に、全国数ある大学の中で、ここ南国の地に位置する鹿児島大学を志望し、めでたく入学された新入生の皆さんを、心から歓迎します。

いま皆さんは雄大な桜島をキャンパスから眺めながら、重苦しかった受験勉強からの解放感と、自然と人情に恵まれたこの鹿児島でこれからの4(6)年間の青春を過ごせることへの期待感に、胸躍らせているのではないかと思います。

ところで皆さんが懸命にめざした大学とは一体どういうところなのでしょう。入学するにあたって一度よく考えてみることは、これからの学生生活を過ごす上で、とても大切なことのように思えます。

まずは何よりも大学が学問する場であることでは、誰も異論のないことと思います。「科学する」は文字通りサイエンスを探求するとなりますが、「学問する」はそのサイエンスを通して人が成長していくという、人間臭さの意味が含まれています。つまり大学は単に科学するのみではなく、人として成長していくという人間陶冶の期待が深く込められています。科学技術がどんなに発達しても、それを使う人間がおかしくなれば、悲惨な結末が待っていることは、昨今の憂鬱なニュースを見れば自明のことです。科学を通して人間性を磨くことを心がけて下さい。

また学問は「問うことを学ぶ」のとおり、既成の知識を身につけることではなく、それが正しいかどうかを主体的に問うことにあります。わかっていることを学ぶのではなく、わからないことを学ぶ(研究)ところに大学の真骨頂があります。故に大学では日々の研究活動を軸にして教育が展開されることを深く認識して下さい。その意味でも4(6)年の教育課程の中で、高学年に課せられている卒業論文は非常に重要な位置にありますので、全力投球でこれに挑戦し、満足すべきすばらしい成果をあげて下さい。さらに向上心に燃える方は、大学院をめ

ざして研鑽することも出来ます。

また大学は家族を支えて働く皆さんの両親をはじめ、大学に期待する多くの国民の税金によって成り立っているという事実にも異論はないでしょう。大学には学問の自由がありますが、その自由をはき違えては困ります。納税する国民の皆さんの期待にも応えて、人間としてまた社会人としての資質を高めていきましょう。

そのためには日常の講義、実験、セミナーなどの地道な学習活動をまじめに継続することは言うまでもありませんが、キャンパス外の実社会にも積極的に出かけ、地域で働き、暮らす人々の諸問題を実践的に学ぶことも大切です。さらに放課後はスポーツや文化などの課外活動にも積極的に取り組み、多くの友人とともに集団生活を通して友情を深め、人間性を高めて下さい。また新世紀はグローバル化の時代ですので、世界にも眼を広げ、海外にも積極的に出かけて、見聞を広げてみて下さい。

学生のみなさんにとって鹿児島大学はとても恵まれた環境の中にあります。例えば、大学キャンパスが都市の中心地に位置しながらも、閑静な居住地为大学近辺に確保でき、通学ラッシュもなく、のんびりと徒歩や自転車で通学できることは、大都会の大学と異なり、交通費や大切な時間を節約できる点で大変なメリットです。また海と山に囲まれ、南方には多くの島々が広がる鹿児島の豊かな自然と、そこで育まれた人情豊かな風土は、皆さんの学問を高めていく上で、大きな財産となるでしょう。

束縛と強制からの解放、つまり自由にまसरるものはありません。皆さんはいま自由になれたのです。しかしそれはまだ受験勉強の束縛と強制からの自由でしかありません。何がしたくて、何になりたくて皆さんは自由になったのか。それをつかむことで自由はより積極的で主体的となり、皆さんの大学生活をより充実させるのではないのでしょうか。

願わくば卒業までに皆さんのめざすべき方向と道筋が明確になっていることを期待してやみません。



異なるものを大切にしよう

共通教育委員会委員長 山原 芳樹

20世紀は、物質文明と科学技術の時代であったと言われます。確かに、私たちはその恩恵に浴しています。

エアコンの効いた部屋に家電製品が揃い、世界各地の産物を享受し、容易に海外旅行ができる生活を営むことができます。情報化の進展やマスメディアの発達によって世界中からあらゆる情報を瞬時に入手できます。これらもたらす変化は、市場に登場してもすぐに旧式になってしまう情報機器が象徴するように、かつて人類が経験したことがない速さで進展しています。

他方、この文明はオゾン層の破壊と地球温暖化、環境汚染など人類未来を危機に陥れる問題を引き起こしました。私たちは、化石燃料や核エネルギーの限界や危険について承知しながらも、その根本的な解決策を見出せないままこのエネルギーに依存した生活を続けています。

前世紀のこれらの正と負の遺産をどう引き継ぎ、新しい世界をどのように構築したらよいか、との問題に人類は直面しています。人類の平等と科学的真理を追究し進歩や継続的發展を願う合理的精神、そして生活上の安全や便利さを求めた応用技術が、なぜ自然破壊や事故・災害をもたらすのかについて真摯に考え、長期的視野に立って課題を解決することが求められています。

問題は大きくて複雑です。世界各地の社会・経済・政治状況は、密接に結びついていて相互に影響し合っています。それぞれの文化圏には、異なった言語を用いる人々が長い歴史的経緯と深い思索に裏付けされた価値観や世界観に支えられて、様々の思想や風習、伝統を守っています。その間には、多くの思惑と利害が対立しています。私たちには、こうした困難の状況の中にあっても、

人類共通の問題を解決するために、力と知恵を出し合う努力を重ねてゆくことが求められています。

とりわけ、新しい時代を生きるこれからの世代には、地球社会を担う責任ある個人として、学際的・複眼的視点に立って自ら課題を探究し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動できる能力が必要となります。そのためには、それぞれが深く広い生命観や人生観を根底に持ち、異なる歴史的・文化的背景や価値観を持つ人々と共生していこうとする強い意欲と、コミュニケーション能力や情報処理能力に支えられた幅広い視野と総合的判断力が必要となります。

学生生活をこれから過ごす4(6)年間は、諸君の人生にとって決定的に重要な時間です。人類が積み上げてきた英知である諸科学の成果を十分体得して各自の専門性を高めるとともに、それが現代社会の中でどういう位置付けにあるかを学ぶ努力を重ねて欲しいと思います。同時に、「自分とは異なるもの」のことを学んでください。ともすれば自分たちとは異なるものを排除する傾向があると言われる日本人にとって、異なる文化や伝統を理解し、性・世代・国籍・言語・文化・宗教等のさまざまな違いを受け入れ、共有化できる価値を追求していく態度を養うことは、極めて重要です。さしあたりは、教室や生協食堂あるいはサークル活動の場で異なる人との付き合いが始まります。その際、「間違い」ではなく、お互いの間にある「違い」を理解し、相互に尊重する姿勢が大事です。この寛容の姿勢を続けていくその延長上に、世界平和と人類共存、自然保護と生命尊重が実現できる世界が広がっているはずで、諸君が修得した専門的知識も、そのとき十全に意味を有することになります。



大学と出口問題

法文学部長 辰村 康

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。厳しい受験戦争を終えられ、これからの大学生活に胸をときめかせておられることと思います。そのような時に、卒業時のことを記しますのは申し訳けないことですが、皆さんに悔いの残らない学生生活を送っていただきたく、あえて卒業時の「出口問題」についてお話ししたいと思います。

大学審議会が、平成10年に「21世紀の大学像と改革方策について」を文部大臣に答申しました。それは大学改革について戦後最大の制度改革を伴う内容となっており、本学でもそれに沿って改革を進めていますが、その中で答申は大学卒業をもっと厳しくするよう求めています。いわゆる「出口管理」を厳しくするよう求めているのです。

鹿児島大学の留年者数はいまでも多いほうだと感じています。平成12年5月1日現在、理由の如何を問わず、最短修業年限を超えて在席している学生は、全学部で815人もいますし、学年途中で進級できなかった学生の数も含むなら、その数は1266人にも達しています。法文学部でも留年している学生は175人にも達しているのが現状です。本学では、今までも答申がいうほどやさしい卒業認定ではないのです。

ソフィストの詭弁ではありませんが、その数があまりに多くなると、教員の教え方が悪いのではと批判されそうですが、答申が、教員も学生も、大学である以上は、学問の厳しさを認識し、もっと真面目にやりなさいと言っているとするならば、卒業時の厳しさは至極当然のことなのです。

さて大学が直面しているもう一つの出口問題があります。それは学生の就職問題です。これは昨今の経済情勢

から本当に厳しい問題となっています。

企業側の求人活動は年々早まっていますし、会社説明会等は3年生の学生を対象とし2月上旬からスタートします。このように採用活動・就職活動が早まってしまうと、大学教育への悪影響は多大なものがありますし、何よりも学生が自分の進路についてじっくり考える時間がなく、結局のところ会社選択においてミスマッチが生じるのではないかと心配しています。

しかし各大学は、今や大学教育の集大成として学生の就職問題に取り組んでいます。本学でも就職問題懇話会を設置し、就職説明会を開催したり、就職相話室を設けたりしています。法文学部でも9月から3年生の学生を対象に就職ガイダンスを開催し、学生に現状の厳しさを訴えています。またひと昔前には考えもしなかった教職員による企業開拓も行われています。

このような就職戦線に勝ち抜く秘けつは、なんといっても学生自身が自らの適性を知り、どのような仕事につきたいのかを早くから見極めておくことだと思います。いまや「大企業ならどこでも」といった甘い発想が通用するような求人状況ではありません。

入学早々に苦言を提するようで恐縮しますが、皆さんは卒業認定という出口と就職という出口の、二重苦の出口問題を抱え、厳しい大学生活となりそうですが、どうぞ頑張ってください。





21世紀に活躍する諸君へ

教育学部長 坂尾 隆

新入生の皆さん、入学おめでとう。皆さんは、まさに21世紀の最初の新入生として鹿児島大学の門をくぐって来たところで、今からはじまる21世紀の主役となるべき人達です。その皆さんが活躍する21世紀とは、どんな時代になるのでしょうか。それは間違いなく科学技術の進歩が速く、それに伴い人々の生活様式をはじめ、社会や経済の機構も急速に変化していく時代になると思います。私が皆さんと同年齢であったころは二つの世界大戦をはさみ、社会や世界情勢に急激な変化があり、科学技術も急速に進歩した20世紀の前半から、後半へと移ったところで、これからは不安はあるものの社会や世界情勢はおちついていくと期待され、一方、科学技術の発達には飽和に近づき、進歩の速度は鈍化するものと考えられておりました。ところが、その後、科学技術の進歩には想像がつかなかった程めざましいものがあり、その展開の速さも鈍化するどころか加速しつつあるようです。コンピューターとその応用技術は日進月歩の進歩をつづけており、人ゲノム解読は生命科学や医療技術に多大な影響をあたえ、これらを中心とする科学・技術の進歩は、人々の生活を変えていくとともに、社会・経済の仕組みも急速に変化させていくことは確かであると思います。ところで、これらの進歩や変遷は人々に豊かさや幸せをあたえてくれるのでしょうか。交通や通信手段の発達は便利さを、電化製品は家庭生活の快適さを、医療の進歩は長寿をといった恩恵をもたらした反面、児童虐待、荒れる小学校、登校拒否などが増加し、世界的にみれば、絶えることのない民族戦争、環境ホルモンによる汚染、過剰開発による砂漠化、温暖化による海面上昇の危惧など、将来には明と暗の両面が現れてきました。そのどち

らに進むかと思うときに大切なことは、これらの進歩や変遷は自然にもたらされるものではなく、人間がつくりだしているものであるということです。もし、皆さんが、これからの世界を第三者的に傍観しておれば、世界の将来がどちらに進むか、全くわからないこととなります。そこで皆さんは未来を人に真の豊かさをもたらす明の方向へむかわせなければならぬと思います。要するに世界をつくるのは人間であり、一人一人の力は小さくても着実な努力がおこなわれるかぎり、皆さんの未来世界は決して暗くないと思います。

そこで、皆さんには、まず、自然や人間などについていろいろな角度から広く見渡せる視野や、それについて考える能力を養っていただきたいと思います。そして、それとの関わりのなかで専門の力量を伸ばして欲しいと思います。すなわち、幅広い人間性の基盤にたつ専門的能力によって人間に豊かさ、明るさをもたらす方向を常に求めつづけて欲しいと思うのです。また、進歩と変遷の速い時代には、一度学んだ知識より、その時その時の必要に応じて対応できる理解力、考察力あるいは創造力といったことの方が大事になると思います。大学は学び終えるところではなく、そのような能力を自分で開発し展開していくために学び始めるところだと思います。皆さんが自分たちで明るい未来を創りだしていく、そのことに期待と希望をいただいております。





思索の面白さと実践の楽しさ

理学部長 井上 政義

新入生の皆さん、受験勉強という義務としての勉学から解放されておめでとう。

学問は本来、人に飽きる事

のない最も深い悦楽を与えるものです。この学問のもつ素晴らしさを堪能できる素養を培う場が大学です。理学部では、数学や自然科学を学ぶことができ、さらに大学院ではこれらの研究もできます。言うまでもなく、学問は役に立つのみではなく、それは人が人として生きて行くときの楽しみを与えてくれます。ただ、食べて寝るだけであれば、取り立てて人として生きている意味はありません。また、単に物質的な快樂のみを充足する生活もこれと同類です。騒音を撒き散らして、オートバイで駆けるのは、いくらそのオートバイが高級な技術的産物であっても、それは野蛮な行為でしょう。このような行為よりも、静かな湖畔を散策し詩作に耽る方がよほど、文化の高い時の過ごし方です。私たちはこれまで、人の欲望を科学技術の力でかなえようとして、過去の人が想像もできないほどそれを現実化してきました。ある側面をみると、一介の市民が昔の王侯貴族のような贅沢な生活をしています。しかし、人々はそれでも満足せず、社会にはもろもろの歪みが生じています。

21世紀は当然に20世紀の単なる延長ではなく、そこでは人や社会の在り方が再検討されそれによる転換が求められます。それを、主に担って行く運命にあるのが、君たち若い者なのです。物質的發展のみの追求から、真の意味で深い文化の創造が託されているのです。幸か不幸か人は、過剰な知能をもつ存在であり、何もせずに生きることができません。人の有り余るエネルギーをいくらでも昇華できるのが数学や自然科学などの学問です。それは限りなく深く、数千年におよぶ人類とりわけ天才

達の知的エネルギーを吸収しても益々その窺い知れぬ深さは増すばかりです。大学は知のパラダイスであり、人類が築きあげてきた知の体系を系統的に学べるところです。幾多の天才達の思索の所産、実践家などが得た経験的事実などが厳しい批判のふるいにかけて、整理され精選されたものを数年の内に学ぶことができるのです。これほど、贅沢なことがあるでしょうか。それに、ここでは、生身の教師から直に教わることができ、また志を同じくする者同士が互いに研鑽し合えるのです。僅か半世紀前には、学びたくても学べずに、戦に赴いた学生達がいたのです。君たちの先輩にあたる彼等の境遇を思えば、このような学習の機会に恵まれたことに感謝すべきです。歴史を学ぶとは、このようなことだと思います。

君たち若い人は、人の内面を見つめると同時に、国（世界）の現実を認識しておくことも大切です。危機はある日突然やってくるように見えるけれど、それは着々と準備されているのです。戦後50年が経過し、日本はそれなりの発展をしてきましたが、財政面は国と地方自治体を合わせて約600兆円ほどの（国民一人当たり約500万円）債務を抱えることになっています。見かけの繁栄の裏に、深い欠陥を抱えているのです。このような現実を見据え、夢を抱いて悔いのない青春を送ることが、この日本という国で今を生きる君たちの人生の醍醐味だと思います。





21世紀を担う新入生の諸君へ

医学部長 永田 行博

鹿児島大学への入学を心から歓迎します。

諸君は21世紀になって最初の新生です。21世紀を担う学生ということから、私たちの期待は非常に大きいといえます。

なぜでしょうか。それは諸君が有意義な学生生活を送ることによって、希望に満ちた新しい世紀を創造してくれるにちがいないというその可能性を諸君が持っているからです。

今わが国は、幕末・明治維新时期および第2次世界戦争敗北後に匹敵する未曾有の大変革期があると広く認識されています。20世紀末から新世紀初頭のこの大変革期を無事に乗り切り、新しい希望に満ちた日本国を造ってくれることが諸君に期待されているのです。

私の分野の医学は20世紀には非常に進歩し、ついには人間を構成している全遺伝情報を解読するまでに発展しました。しかし、それに伴って色々な弊害も指摘されるようになりました。21世紀はその遺伝情報や多くの先端医学・医療をどのような方法で人類の福祉に役立てるかという大きな岐路に立っているのです。その岐路に諸君もいやも応もなく立たされているのです。

その解決には、医学や歯学のみばかりでなく、生命科学に関連するいろいろな分野の人々の協力が必要です。「ヒトとは何か」という観点からは、農学や工学のみならず、哲学や倫理学など多くの研究者や教育者を総動員することが必要です。したがって、諸君がどの学部や研究科に属していようと、「ヒトとは何か」あるいは「人間とは何か」という課題になんらかの関わりがあるのだと認識して、いつもその問題の解明を考えてほしいと思います。

司馬遼太郎は、薩摩の人たちはイデオロギーに侵されない透徹した目を持つ「ものを見る達人たち」であったと言い、それが明治維新の原動力になったと言っています。今まさに「ものを見る達人たち」が必要とされているのです。諸君はその「ものを見る達人」になるために、チャレンジしてほしいと思います。

そこで私は諸君に提案します。

まず、勉強をしましょう。次に、どんな些細なことにも興味を持ちましょう。さらに、「なぜ」という疑問をいつも自分に問い、それでも納得できなければ、「なぜですか」「どうしてですか」と他にも問い、疑問をぶっつけてみましょう。大学は真理を探究するところです。

勉強や研究に興味を抱くようになったら、多くの友を作り、共に遊び、大いに語らうことも学びましょう。このことは、勉学と同じくらいに大切なことです。

4年間あるいは6年間で諸君の努力がどのように結実するかを考えると、私は身が引き締まり、同時に大きな希望が湧いてきます。4年後あるいは6年後の卒業時にその成果を是非見せて下さいとお願いして、入学の歓迎とします。





新入生諸君へ（ちょっと辛口の祝辞）

歯学部長 大工原 恭

諸君は21世紀前半の日本を担い、かつ確実に今世紀中にその生涯を終える人達です。しかし、今年から始

まった21世紀の世の中が今後どのようなのか、正直なところ私には分かりません。前世紀（20世紀）が始まった日本は明治34年であり、日露戦争（1904年2月から1905年9月）の開戦前の騒然たる世の中であったようですが（当時のことは、司馬遼太郎の「坂の上の雲」を読んで下さい）、その頃の人達は、携帯電話やインターネットで情報があふれる今の世の中を想像出来たでしょうか。20世紀の当初は、モールス信号による無線通信がようやく実用化された頃なのです。従って、諸君が担うであろうこれからの半世紀がどのようなのか、誰にも確実なところは予想出来ず、世の中の変遷に沿って、その都度諸君の柔軟な頭脳とフットワークにより対処してもらおう他ありません。それには、これからの大学生活を如何に過ごし、人間を磨くかにかかっていると思います。

以上は一般論ですが、歯学部に入學した諸君には、私の不確実な予想も加えて、これから6年間の大学生活を如何に送るべきか述べておきたいと思います。

歯学部とは、単に虫歯の治療と入れ歯を作製する歯科医師を養成する所と誤解されがちです。また、一般に歯科医師になるためには、手先の器用なことが必要条件のようにいわれています。しかし、歯科医学が技術中心であったのはもう過去のことです。これからの歯科医療従事者には、他の分野にも増して幅の広い教養と、それに裏打ちされた豊かな人間性、確かな倫理観がまず要求されているのです。それには、自分で勉強し、考えることが必要です。サークル活動は大いに結構ですが、サーク

ル活動に溺れてしまうのは、大学生本来の道から外れていることをまずはっきり認識して欲しいと思います。

高齢化社会が進みつつある我国では、今後ますます高齢の、かつ何らかの全身疾患（例えば高血圧や糖尿病）を持つ患者さんが多く歯科医院を訪れるようになると考えられます。従って、諸君はこのような患者さんに対してもその全身疾患を理解した上で、きちんとした歯科医療を行い得る歯科医師でなければなりません。歯学部では、それに配慮したカリキュラムを編成し、かつその改良に毎年努めているところですが、諸君もその重要性を認識し、きちんと理解して正しい知識を身につけるよう努力して欲しいと願っています。

また、歯科医学分野での予防医学はまだ緒についたばかりですが、今世紀にはこの分野での大きな進展が期待され、これに伴い歯科医師の需要は減少することも考えられます。従って、歯科医師の間での競争は今よりさらに激しくなり、歯科医師間での自然淘汰が進むものと思われれます。しかし、歯科医師が全く不要になるとは考えられません。諸君は、このような競争に生き残れる、高度な知識と技術を持つ歯科医師である必要があります。もっとも、予防医学が進んだ一般医学の分野では、高齢者人口が増したため、かえって医師の需要が増える傾向にあります。従って、歯科医学の分野でも予防歯科医学が発展すれば、かえって歯科医師の需要が増えることになるかも知れません。このあたりは、現時点では予測出来ないところです。

いずれにしても、諸君にはまず歯科医学の修得に必要な基礎学力を身につけ、歯科医学に積極的に取り組む意欲と、将来優れた歯科医師、あるいは歯科医学研究者・教育者になるのだというはっきりとした目的意識を持って、勉学に励んでくれるよう期待しています。



工学部および理工学研究科に入学される皆様へ

工学部長 矢野 利明

新入生の皆さん入学おめでとうございます。これまでは、両親や先生、そして周囲の人達の協力や援助を受けながら人生を歩んできたことと思います。今日から本当の意味で、独り立ちすることになります。どのような人生を歩むかは貴方自身が決めることになります。そして、大学生活はその出発点となるはずです。人間が大きく成長するのは、感受性の強い、しかもあらゆるものを吸収することができる柔軟な思考を持った大学時代だと思います。

大学で何を学ぶかは、皆さん自身で考えて下さい。考える材料の一つとして、「勉強」と「学問」の違いを知って欲しいと思います。高校までは「勉強」をしてきたと思います。大学では是非、「学問」をして欲しいと思います。それでは、勉強と学問はどう違うのでしょうか。字をよく見て下さい。「勉強」は「勉めるを強いる」となっていますが、「学問」は「学を問う」となっています。他人から強いられることなく、自ら何か問うことが学問であるように思います。「学を問う」には、ただ授業に出て、教科書を読めばいいと言うものではありません。人間とは、社会とは、平和とは、環境とは、或いは正義とは、愛とは、友情とは、といったことを追求していくことも学の中にあるように思います。

最近、私の身の回りで悲しくなる出来事がありました。それは、大変真面目な学生が大学を辞めたことです。その理由は、大学では今すぐに役に立つことを教えてくれない。それに対して、専門学校ですぐに役に立つことを教えているので、専門学校に行くというのです。工学を学ぼうとする者にとっては、このことは一見、正しいように思われる方が多いかもしれませんが、私は賛成できません。

私の友人でコンピューター関連の会社の社長をしてい

る方がいます。この方は社長業をやりながら、本研究科で博士号を取られました。そのテーマは仕事とは直接関係ないものでした。その方によれば、大学を卒業した人と専門学校を出てきた人とを比べると、会社でもすぐに役に立つのは専門学校を出た人だそうです。しかし、会社に入って3年程度が過ぎると追い越していくそうです。さらに、将来の展望だとか、これからどんなことが問題になるかの解答を出してくれるのは大学を卒業した人だそうです。

工学部の専門教育を通して、皆さんに身につけて欲しいのは、あらゆることに対する課題探究能力や問題解決力です。今すぐに役に立つ知識や情報は未来には役に立たなくなります。人間にとって将来何が問題になるのか、何が必要になってくるのか、それを問う能力を身につけて欲しいと思います。

最近、茨城県東海村の臨界事故や新幹線のトンネル崩落などで、日本の技術者の倫理が衰退していることが各方面から指摘されています。工学系の学会においても、倫理規定を設けて、「自らの良心と良識に従う自立ある行動が、科学技術の発展とその成果の社会への還元にとって不可欠であることを明確に自覚すること」を求めています。また、「人類の持続可能性と社会秩序の確保にとって有益であると判断した上で事業に参加する」ことを強調しています。

未来の社会を築き上げていくのは、何時の時代にあっても、若者です。日本を、或いは世界をどんな社会にするか、それを工学部、理工学研究科で考えて頂ければと思います。





新入生への歓迎と期待

農学部長 西中川 駿

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、この西暦2001年という記念すべき年に、

いろいろな期待をもって鹿児島大学に入学されたことでしょうか。特に学部入学の皆さんの中には、今まで苦しい受験勉強をしてきたのだから、アルバイトをしてうんと遊んで、別の意味での有意義な学生生活を送ろうと考えている人もいるかもしれません。しかし、大学は、高校時代のような受け身の勉学ではなく、自らが学ぶことにより知識の集積や人格の形成がなされ、そして自分自身を成長させてくれるところなのです。特に私達の農学部は、皆さんが自分の将来を考え、それを深めるに相応しい教育環境をもつ学部であると思います。また、大学院入学の皆さんは、学部で研鑽された知識と探求心を遺憾なく発揮して研究に励み、素晴らしい研究の成果をあげられることを期待いたします。

明治41年（1908年）に設置された鹿児島高等農林学校を母体としている農学部は、その伝統と歴史に誇りをもった幾多の優れた人材を世に送り出してきました。現在は南九州というこの恵まれた自然環境のもとで、生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科および獣医学科では、地域との連携をはかりながら、それぞれの分野で幅広い教育と研究が行われています。

農学の基盤である農業は、大昔から人類の生存を支え、人類の発展に大きく貢献して参りました。また、近年の生物科学の目覚ましい進歩により、バイオテクノロジーを駆使した動植物の品種改良から環境保全対策まで、時代に即応した教育と研究が望まれています。この21世紀は、世界人口の爆発的な増加による食糧危機や自然破壊による環境の悪化など人類の存亡にかかわる深刻な問

題が山積みされています。農学はこれらの問題に真正面から対処し、人類の健康を保持し、豊かな環境を創造する使命を担っているのです。新入生の皆さんの好奇心と独創的なアイデアで、これらの問題を解決する方策を生み出してくれることを期待しています。卒業生は、主に企業や公務員、研究機関など幅広い分野に就職しますが、大学院修士課程（農学研究科）や博士課程（連合農学研究科、連合獣医学研究科）へ進学する道もあります。研究意欲に燃える若い皆さんのチャレンジを期待しています。

これから鹿児島大学で過ごされる皆さん、この総合大学でいろいろなことを学びとり、何事にも積極的に参加し、多くの友人を得て下さい。そして多様化する社会のニーズに応えられる自分自身をつくり出して、国際化の波に乗れるような人になって下さい。21世紀を担う皆さんのこれからの学生生活が、心豊かで有意義なものになることを祈念いたします。





21世紀は君らの出番

水産学部長 上田 耕平

鹿児島大学水産学部、大学院水産学研究科水産専攻科へご入学の諸君、入学おめでとう御座います。諸君

にとって、まさに記念すべき21世紀初年ですね。

水の時代と言われている21世紀は、世界的な人口増加による食糧危機や地球規模での環境破壊等の難問を抱えています。まさに21世紀は水産人の出番です。諸君には大学生生活を通して、この21世紀に心身ともに十分に役立つ人間に育っていくことを期待しております。

水産学部新入生の大学生生活の第一歩は、学部附属の練習船を利用した2泊3日の乗船実習から始まります。おそらく今までに体験したことのない小人数の学生と先生、乗組員による規律正しい船内生活を通して、水産学部に入學した実感が湧いてくるものと思われまゝ。運が良ければイルカも船のまわりに集まって諸君の入學を祝福してくれるでしょう。

さて、大学生活において高校生活までとの最大の違いは、ホームルームがなく、諸連絡は先生からの口頭連絡と違い、ほとんどの連絡事項が掲示板によってなされていることです。しかし、水産学部では今年から、この掲示板を原則的に廃止し、電子掲示システムを採用しました。このシステムは、4ヶ所に設置された通常のディスプレイ装置（学部管理棟学生係前、学部講義棟1階、水産学部生協共通教育棟1階にあります）で情報掲示の他タッチパネル方式の検索機（学部管理棟学生係前、学部講義棟1階の2ヶ所）による情報検索が可能で、さらに自宅などからパソコンや携帯電話によって、学生呼び出し、休講通知や教室変更など含めた各種の講義に関する情報等を知ることが出来ます。利用可能な携帯電話は現時点でインターネットが利用可能な全てのモード（iモ

ード、j-sky、Ez-wave）に対応しており、全国の大学で最初に採用されたシステムです。

諸君は入学時から「水産学科」と「水産教員養成課程」の2つに分かれています。1年半経過した後、「水産学科」はカリキュラムの異なる「水産総合コース」、「水産環境コース」および「水産資源コース」の3コースに分かれます。このように教育コースは3コース1課程ですが、教官は5つの大講座に配属されていますので、諸君も3年後期にはこれらの研究組織に所属して、4年次に卒業研究を行うこととなります。これらのコース内容、講座名や研究内容、さらに講座へ進むためのアドバイスや卒業後の進路などは学部のホームページで最新の情報を公開しています。ホームページの見方は1年前期の情報活用基礎の授業で教えてくれます。水産学部ホームページのアドレスは、

<http://www.fish.kagoshima-u.ac.jp>です。

水産学部の最大の特徴は入学時から、この所属時まで、学生約10名に対して助言指導教官が1名ずつ付いていることです。学生諸君、分からないことがあったら遠慮せずに先生に相談して下さい。

大学院および専攻科へご入学の諸君は、これまでに培ってきた力をさらに伸ばすとともに、今一度、自分は自信を持って何が出来るのかをはっきり掴んでほしいと思います。





Welcome to Rendai!!

連合農学研究科長 荒井 啓

農連大へようこそ！ 21世紀の初年度に、わが連大（博士課程）に入学・進学された63名の皆さん、まことにおめでとう御座います。連大の教職員を代表して、心より祝い申し上げますとともに、心より歓迎いたします。

本年度、わが連大の一員になられた方々には、構成大学院修士課程を修了し引き続き本課程に進学された方、他大学院修士課程を修了され本研究科に入学された方、一度は就職され社会人として入学された方などがおられ、経歴は異なります。また、佐賀大、宮崎大、琉球大、鹿大水産学部そして鹿大農学部と研究のホームグラウンドは異なりますが、皆さんの目標は一つであると思います。それぞれの専門領域で博士の学位を取得するという明確な目標であります。皆さんはこれまでに各分野の先端的手法を修得され、その手法を用いて実験を行い、あるいは、新しいデータを集め・分析し・新理論を展開し、一応の成果を挙げておられます。入学・進学願書と共に提出された皆さんの研究経過報告書にそれが窺えます。また、同時に提出された入学・進学後の研究計画にはすばらしいものがあります。今後3年間でその計画に従って、指導教官の助言を受けながら立派な果実を实らせていただきたいものとお願いいたします。

言うまでもありませんが、博士論文の内容は先端的であると同時に独創的であることが要求されます。独創的ということは自分ひとりしかやっていないということであり、そのテーマについては権威者であるということでもあります。言葉をかえて言いますと、かなりの部分では指導教官よりも高い識見を有するものでなければなりません。そのためには、自らが努力し、新しい手法の開発

や発想の転換が必要になりましょう。それには思わぬ困難が待ち受けているかもしれません。それを打開し、新しい道を見つけた喜びが次の研究の発展に繋がるものがあります。研究に打ち込むと寝食を忘れてしまうことがあります。研究を遂行するには体力がいります。規則正しい食生活と適度なストレス解消が欠かせません。以上は、皆さんにとっては既に自覚されていることかもしれませんが、皆さんの新たなスタートに当り、再認識していただければ幸いです。

最後に、32名の留学生の皆さん、遠いところからこの鹿児島農連大によく来て下さいました。仏教の教えの「輪廻転生」から派生したもので、「袖振り合うも多生の縁」という諺があります。皆さんが九州あるいは沖縄で生活されることになったのも何かの縁です。研究成果を得るほかに多くの学外の市民との交流を深め、日本の文化を吸収し母国にお伝えして欲しいと願っております。充実した留学生生活を送ってください。





保健管理センターから新入生の皆さんへ

保健管理センター所長 前田 芳夫

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さん方、大学生になって、きっと張り切っていることと思います。どうぞ、その心意気を大切に、これからの学生生活を有意義に過ごして下さい。しかし、そのためには、何はともあれ、心身共に健康でなければなりません。皆さん方の、この健康を守るために、鹿児島大学には保健管理センター（センターと略）があります。

以下、センターの業務内容について説明します。

日常の一般診療・健康相談・心理相談

風邪やけが、心配事や悩み事など、文字通り皆さん方が日常遭遇するいろいろな病気や相談事に、毎日、無料で応じています。皆さん方の先輩達も、最初、センターを訪れる時は、恐る恐るやって来ますが、1度来ると、その後は、2度、3度と、病気や相談事がある度に、気軽にやって来るようになります。ちなみに、昨年度、何らかの理由でセンターを訪れた皆さん方の先輩達は、延人数にして約12,000名でした。皆さん方も安心して、センターを利用して下さい。

定期健康診断

また、センターでは、毎年4月から5月にかけて、全学生を対象に、定期健康診断（定健と略）を行っています。皆さん方は、毎年、この定健を受けなければなりません。これは義務です（学生便覧：鹿児島大学学則参照）。定健では、毎年150名前後の人々が、何らかの異常を指摘され、そして、その1/3の人々が要治療者として、専門病院へ紹介され、治療を受けています。その中には、肺結核の人も数名含まれています。何事もそうでしょうが、病気では、特に、早期発見、早期治療が肝心です。

特別健康診断・臨時健康診断

さらに、センターでは、実験・実習やスポーツ大会に備えての特別健康診断や臨時健康診断を行っています。しかし、これらはすべて、定健受診者に限られています。従って、定健未受診者は、その年の特別健康診断や臨時健康診断は受けられません。

健康診断書等の発行

また、センターでは、就職や奨学金等用の健康診断書発行も行っています。しかし、これもまた、定健受診者に限られています。

健康チェック

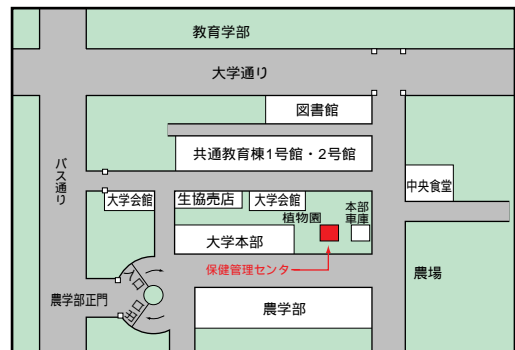
この他、センターでは、玄関ロビーに自動血圧測定器や体内脂肪計等を設置して、皆さん方が何時でも利用できるようにしています。気軽に利用して下さい。

スタッフ

センターには、2名の医師と看護婦が常時、診療に、また、心理相談にあたっていますが、この他にも、大学病院からは、内科、精神科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が、また、法文学部、教育学部からは心理の先生方が、それぞれセンターに来られて診療に、あるいはカウンセリングにあたっています。

皆さん方も、センターを上手に利用して、快適な学生生活を送って下さい。

保健管理センター地図





知的生活のためにより良い情報の選択と活用を

附属図書館長 中山 右尚

皆さんご入学おめでとうございます。皆さんの充実した学生生活の日々が、ひとりひとりの目的に応じて

高度に達成されることをこころから期待します。

わが鹿児島大学の附属図書館は、中央図書館、桜ヶ丘分館、水産学部分館の三館からなります。この三館の図書の蔵書数は合計で約百三十万冊、雑誌が約二万タイトルあります。これが主として鹿児島大学の学術文献情報を支えていることとなります（いずれも平成12年度現在）。この他に中央図書館には、薩摩藩島津久光の蔵書を主体とする「玉里文庫」をはじめとする貴重なコレクションも所蔵されています。また、鹿児島大学は全国の国立大学の中で、農学系の外国語雑誌のセンター館としての役割を担っていますので、中央図書館にはその雑誌群が所蔵され、他大学等にもその情報を提供しています。

学生の皆さんが、学習研究はもとより教養を高めていくために、学生用図書についてはその充実特に意を用いています。また、留学生のコーナーを設けて留学生の皆さんの学習研究を支援しているなど、図書館は鹿児島大学で学ぶ人々のために、さまざまな工夫をこらして、皆さんの利用を待っています。

研究科入学の大学院の皆さんは、すでに大学図書館の経験者です。研究科での学習研究に即応してより高度な図書館の利用が始まると思います。学習研究の新たな進展を大いに期待します。

学部入学の皆さんは、ほとんどの人々が、大学の図書館利用は、はじめてのことと思います。晴れて鹿児島大学の一員となった皆さんは、これからさまざまな目的で鹿大図書館を利用することとなります。教養や趣味のための読書はもとより、学術図書、学術雑誌などなど、目

的にしたがって確実にかつ自在に検索し利用する必要があります。

図書館を活用するためには、共通教育を多く履修する1～2年次に図書館の利用に習熟することだと思えます。本学図書館は「概要」、「利用案内」、館報「南風」を刊行しています。それらの冊子によく目を通してください。また、図書館のホームページをよくのぞいてください。そこでは図書館発行の冊子体の情報に加えて、最新の情報が満載されていますし、種々の検索もできます。図書館ガイダンスの案内なども、ぜひホームページで確認して参加しましょう。皆さんの知的生活を豊かに実現するためには、図書館を有効に活用することです。図書館は皆さんの活用のためにさまざまなプログラムを用意しています。

最後になりましたが、もう一つ期待したいことがあります。それは図書館利用のマナーを守ってほしいということです。鹿大図書館は市民にも公開されています。鹿大生として恥ずかしくない品位あるマナーを堅持してほしいと切望しています。





鹿児島大学国際化を進める

留学生センター長 土田 充義

入学おめでとうございます。大学キャンパスはどうか。キャンパスには中心を通る道が教育学部と農

学部を繋いでいます。この道には中央図書館と玉利池の森それに生協食堂が面し、ヤシの木が並びキャンパスの顔です。この道に直角に交わる道が国道沿いの門から延びています。私はこの道を学生ロードと呼び、学生主人公の道であってほしいと思っています。現在工事中の塀があって、道らしくはないが、前期の終り頃には総合研究教育棟が完成し、体育館、大学会館、生協書籍部・共通教育棟と一体となって、学生ロードが完成します。この学生ロードを歩くと留学生と必ず出会います。時には留学生に声をかけてみて下さい。私は留学生なら誰にでも声をかけて挨拶します。必ず留学生は返事をします。私が誰か知りません。それでも返事をしてくれるのですからうれしいことです。

留学生センターは現在総合情報処理センターの二階を借りて、昨年四月から、国立大学 99大学の内 35番目に設置され、私以外に4名の先生がそれぞれの分野を担当しています。今年四月から国費留学生11名を迎え、更に私費留学生、短期留学の特別聴講学生を加えると40名程になる見込みです。留学生センターの最も大切な仕事は日本語教育です。次は留学生の修学上や生活上の指導助言をすることです。この二つは車の両輪のように共に大切だと考えています。入学する留学生にとって、留学生センターは大切であるにちがひありません。と同時に学生諸君との交流も大切です。お互いに異文化を理解し、尊重したいものです。

留学生センターでは留学生派遣のオリエンテーションをしています。主に鹿児島大学との学術交流協定を締結

している大学への派遣を進めています。在学中に外国で語学研修だけでなく、実際に専門を学び、単位互換が認められています。公的資金による制度もあります。

可愛い子には旅させよとの諺があります。外国で学ぶことは異文化に接するだけでも価値があります。外国に出掛けることで日本の良さを理解できることもあります。入学と同時に留学を考えることも大切です。語学の勉強も大切ですが、その国を好きになって下さい。そこからスタートです。

私は中国湖南大学と共同研究を六年間つづけ、その共同研究の成果で、今年三月工学博士を取得して中国に帰る留学生がいます。日本側でも近いうちに工学博士が出ます。修士論文は中国側では二編、日本側では四編です。最初の共同研究では言葉が通じません。それで、お互いに役割分担で進めました。四年も経過しますと、留学生として受け入れたり、派遣が行われ、不十分ながらコミュニケーションが可能となり、共同研究に幅ができて、頼もしく感じたいです。

一人が一つの国とコミュニケーションができれば、10人いると10ヶ国になります。輪が広まれば、それこそ世界とコミュニケーションができることになります。他国とのコミュニケーションを深めることで、今まで気がつかなかったこと、常識が実は常識ではなかったこと、価値観の違うことも分かります。留学の前に留学生と語り合う。このことが21世紀を担うにふさわしい学生の姿だと思います。





若人は化ける

鹿児島大学運営諮問会議委員長 立川 涼

20世紀、私たちは、モノとお金があればハッピーだと考えてきました。きわめて単純な目標ですから、官民をあげて努力しました。今日、モノもお金もあふれるようになったのですから、たぶん日本は20世紀世界の優等生です。

しかし、21世紀をのぞんで、私たちは現在の生活に満足しているのか、将来の展望が明るいのかということ、かならずしもそうではありません。先が見えない、暗い見通ししか持てない人々も少なくありません。20世紀の社会経済モデルの延長線上に21世紀を構想することは無理でしょう。新しい社会のあり方、ライフスタイル、さらには価値観の変革が問われています。

これからの21世紀を予測することは私の手に余る難題ですが、おそらく多元価値社会になるのではないのでしょうか。価値観が多様化し、いろいろな価値観の共存をお互いに認め合う。言い方を変えれば、百人百様の幸福があり、人真似でない、一人ひとりが自分の幸福のモデルをつくっていくと思います。

お金があって財産があればハッピーというモデルは単純ですから、国が国民のためにシステムをつくって面倒を見ることができました。人任せでも私どもは無難に生きていけたのです。

しかし、百人百様のモデルが求められる時代に、行政がすべてトップダウンで面倒を見ることは物理的に不可能です。お役人がいくらいてもできない相談です。当然、一人ひとりが自己の選択と責任で幸福を構想し、実現をしてゆくのです。

大学の4年間は、生涯の中で最も自由な時間です。自

分で選択し、行動できる貴重な時間です。4年間という期間は、何かを為し遂げるに十分な時間です。

学ぶことは、面白く、楽しい、さらには人間が生きていく上で、仕事をこなしていく上で本当に力になるのです。一万年前の人間と現在の私どもと、脳の構造はほとんど変わっていないそうです。しかし、一万年の学習とその集積は、今日のような途方もない人類の文明社会を築いてきたのです。最近では、学習するのは必ずしも人間だけではないということになっていますが、やはり学習能力に極めて秀でているのは人間でしょうし、また、人間は学習する楽しみを、あるいは学ぶことが力になることを知った生物です。今まで私どもが知らなかったことを知る、新しい知識が増えることは楽しいことです。今まで見えなかった世の中の仕組みや背景が勉強することによって見えてくる、分かってくる、世界が広がる。今まで気付かなかったような美しさを、自然の中に、また人との付き合いの中に発見できる。いずれも、これは学ぶという過程を経て実現するものかと思います。

若い方々には無限の可能性があります。私は「化ける」と言うんです。「化ける」ことができるのは若者の特権です。4年後に皆さんは自分でも驚くような変化に気付くはずですよ。

皆様それぞれのやり方で、それぞれの工夫で、展開してゆく人生ですけれども、多分上手に学ぶということは、これからの皆様の人生を実現していく上での重要な鍵でしょう。

繰り返します。学びは力です。学習が社会を変えるのです。

略歴

1930年 ソウル（韓国）生れ
1953年 東京大学農学部農芸化学科（旧制）卒業
その後 東京大学助手（土壌学）
愛媛大学農学部教授（環境化学）
" 農学部長
高知大学長（1999年まで）

この間 瀬戸内海環境保全審議会委員など
現在 愛媛県環境創造センター所長
ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議（NPO）代表
トヨタ財団理事
受賞 放送文化賞（NHK）
三宅賞（地球化学研究協会）



「苦学」・郡司先生のこと

鹿児島大学運営諮問会議委員 大園 純也

私どもの新聞社は今年2月、鹿児島市易居町から新開地の与次郎1丁目に移転した。輪転機などの印刷機器も一新したので、従来人手に頼っ

ていた工程の多く、紙庫から印刷場に搬入する巻取紙の点検や屑紙の処理などが自動化された。そのため、これらの作業に従事してきた嘱託社員の数人が退社することになり、ささやかな感謝状を差し上げた。最年長は79歳。昭和28年から清掃の仕事をやってこられた。年に数日の休刊日を除いて、およそ半世紀を無欠勤で毎日、それも早朝、というより真夜中の作業である。

「慣れると、苦になりませんよ」。感謝状贈呈式での、このかたがたの、さりげない言葉の重みを、私はいま、思い起こしている。

苦学、という二文字は、もはや死語に近いが、私にとっては依然として最も尊敬する日本語のひとつである。それは、例えば、郡司利男先生に対する敬意と重なっている。

郡司利男先生は、我が国を代表する一級の英語学者である。アンブローズ・ピアス (Ambrose Bierce) の『悪魔の辞典』に関する諸研究書のほか、近年ではそっくりの海賊版が台湾で出版されて話題をまいた『英語逆引辞典』などの幅広い著作がある。筑波大学、独協大学を退官されたあと故郷志布志に居を構え、鹿児島女子大学 (現在志学館大学) 教授、平成8年5月には学長に就任されたが、病気のため1年足らずで退任、11年10月死去された。

私が先生の名前を知ったのは、新聞記者になりたての昭和36年ごろだ。光文社の本だったか『英語笑字典』というのがベストセラーになった。その小気味のいい洒落な文章、ピリリとした切り口に、本物のhumourとはこれだ、と感嘆した。著者・郡司利男は当時明治学院大学助教授。巻末の略歴に鹿児島県出身とあるのをみて、早速、一読しての感激を伝えるべく手紙を出した。折り返し届いた返信で、先生の出生地が曾於郡志布志町の四浦 (ようら) であることがわかった。

以来、随筆や連載コラムなどたびたび新聞に執筆していたのだが、こうして今、先生のことを書くのは、その研究業績の紹介が目的ではない。私を含めて、先生と同時代を生きた者たちが等しくなめたであろう苦学、忍耐といったものの今日的な意味を、この際どこかに書き残しておきたい、

それも、できれば鹿児島大学の若者諸君の目にふれるところに、という願いからである。

父は、家族を飢えさせないだけで精一杯の五反百姓だった、と先生は書いている。修学旅行など行けるはずもなく「友達が見せびらかす山形屋の土産が悔しくて、いまだにあの包装紙は好きになれない」。小学校を卒業すると大工見習いの口はあったが、とても勤まるまいと思って家を飛び出し、北九州の電信局の見習いになる。

「四浦はそのころから極めつけの過疎地だった。夜道はね、上をみながら歩く。そうでないと谷に落ちる。一面真っ暗の中で、杉木立のてっぺんの隙間だけがほのかに明るい。その下に道がある。これを伝って歩く。一寸先は闇、と言うが、四浦の夜道に比べると、永田町など真っ昼間みたいなもんですよ」。

大隅支局 (大隅町岩川) 勤務時代に、私は田之浦の町境を越えて四浦に出かけたことがある。そして、先生のおっしゃる「本物の暗闇」というものを、身のすくむ思いで体験したものである。

「貧乏人は勉強でもするしかないのです。食うだけの恒産があれば勉強などしたかどうか」。電信局に勤めながら先生は、当時中学校卒業の資格を得るのに必要な“専検”受験を目指して猛烈な勉強を始める。

「日勤、夜勤と不規則な組み合わせの電信局の勤務の合間に専検を受けるなどということは、生まれかわっても二度とやりたくない生活である。大げさにいえば、当時床を敷いて寝たことなどなかった。二階に下宿していて小便まで我慢するので、腎臓がおかしくなった」。

「慣れると苦になりませんよ」という言葉の「慣れる」とは、要するに、一生の早い時期、つまり若いうちに、苦労やひもじさを体験しておくことであろう。

しかし、である。いやおうなしに極限の貧乏を体験させられ、これをバネにせざるを得なかった郡司先生の青春は、むしろ幸せな時代の巡り合わせであったともいえる。四浦の夜道で私が味わった“やんぐらすん”(真の闇)同様、平成飽食の若者諸君にとって、本物のひもじさなど体験したくてもできない相談である。だから、今のほうが苦学の時代と言えるかもしれない。深刻さにおいてはこっちは上ですよ、と先生がおっしゃったかどうかは思い出せないが。

略歴

昭和35年3月	株南日本新聞社入社	62年1月	同	編集局政経部長兼論説委員会委員
50年3月	同 大隅支局長	平成2年4月	同	論説委員会副委員長
53年4月	同 編集局文化部副部長	3年3月	同	編集局長
54年4月	同 編集局社会部副部長	5年12月	同	取締役
58年4月	同 編集局文化部長兼論説委員会委員	7年12月	同	専務取締役
60年4月	同 編集局整理部長兼論説委員会委員	11年12月	同	代表取締役社長

第2回 鹿児島大学運営諮問会議議事要旨

日時 平成13年1月30日 14:00～17:00
場所 鹿児島大学本部第三会議室（本部4階）
出席者 運営諮問会議委員 6名
石窪 奈穂美 大園 純也
鮫島 耕一郎 芝山 秀太郎
瀬戸口 嘉昭 立川 涼
（稲盛和夫、大西洋逸、堅山博美、吉留史郎、の各委員は欠席）

陪席者 田中学長、萬田学長補佐、辰村法文学部長、坂尾教育学部長、井上理学部長、佐伯医学部長、大工原歯学部長、矢野工学部長、西中川農学部長、上田水産学部長、山原共通教育委員会委員長、中山附属図書館長、中條医学部附属病院副院長、井上歯学部附属病院長代理、幡手地域共同研究センター長、木部法文学部教授、高津法文学部助教授、堀田理学部教授、吉良農学部教授、山口事務局長

議事に先立ち、配付資料の確認・説明の後、各委員の自己紹介があった。

議題1 副委員長の選出について

立川委員長から、副委員長であった江田昌佑委員の退任（鹿屋体育大学長の交代）があったことに伴い、後任副委員長に芝山委員を指名したい旨の提案があり、了承された。

議題2 鹿児島大学と地域との連携について （継続審議）

前回からの継続審議事項である「鹿児島大学と地域との連携について」について、「人的貢献」「産学官連携」「生涯学習」「その他」の4つに区分し、次のような意見交換を行った。

なお、前回及び今回の議論を踏まえ、後日提言等として取りまとめることとした。



人的貢献

（委員） 地域貢献を大学の側から考えるのではなく、地域社会の側から考えたときに大学がどういう人的貢献が

できるかという視点も必要である。

これからは地方の時代であり、これから元気を出すのは地方自治体しかないのので、それを具体的に実現するためのプログラムから技術開発まで含めて大学の果たす役割・期待は大変大きい。



（大学） 地域社会に対する役割はそのとおりであると思っています。

全学合同研究プロジェクトについては、政策提言をも視野に入れていますが、まだそれには至っていませんが、「大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行」プロジェクトは、有機農業を認証する機関としてのNPOの立ち上げに関連しており、プロジェクトの事務局長が理事長に就任しています。

（委員） 人的貢献を行うには、大学の側に人材がなければならない。地域の需要に応じるには、既存の専門領域で対応できない新しい分野を興すことが必要なこともある。それに対応するには、スクラップアンドビルドができるような新しい人事運営のルールが必要であり、人事運営のルールのあり方が地域にどれだけ貢献できるかにもつながる。

また、教歴・学位・論文数等これまでの業績審査のルールを見直し、外部の人材を積極的に採用する人事ルールの見直しも必要である。

（大学） 伝統的学問分野、基礎科学分野は社会のニーズには直接関係しませんが、学問の核をなす部分でもあり、継承・発展させることは重要です。

学部ごとではなく大学全体で人事を管理する新しい人事運営のルールについては、今後十分検討しなければならないと思っています。

（委員） 大学は人材を提供する場と考えた場合、地域に貢献することは当然のことである。逆に、大学が大学外の人材を受け入れる体制を整備する必要がある。

また、最近の学生は、成人としての社会の常識・躰を

身につけないまま社会に出てくる。大学で十分な社会の常識・躰を身につけさせていただきたい。そのためには、大学に外部の人材を受け入れることが大切である。

大学入学の早い時期に、卒業生が新生に講義（オリエンテーション）することは、身近な人の話を聞いて学習の動機付けになる他卒業後の進路を考えるうえでも効果的である。



（大学） 社会の風を大学の中に入れることは大切だと思っています。

例は少ないですが、教員を大学外から採用したり、学部・大学院への社会人受け入れ、学士入学を行っています。今後は、規模を拡大しながら本質論的に方法論を考えたいと思います。

（大学） 講座が小講座制から大講座制に移行し、教官の採用にも融通が利くようになったことから、大学外からの人材の採用については、これまでどのような実績を積んだかを論文に代わる業績として評価し採用した実績があります。今後は、もっと実例の数を増やすよう努力いたします。

（委員） 今年の7月に県民健康プラザ健康増進センターが鹿屋市にオープンする。ここでは、鹿屋体育大学、健康づくり財団と連携・協力し、地域の健康づくりに貢献することにしている。成果はこれからだが、ここでの成果が一つの大きなモデルになるとともに、大学が地域にどのように関与するかの参考になる。



（委員） 地域貢献においては、教官の貢献の他、学生による貢献もある。学生が大学外のネットワークに入ることによって、学生にとっての学びの場、育成の場にもなる。個人としてだけではなく、大学として社会のネットワークに入っていきシステム作りが必要である。

（委員） 大学として、学生のボランティア活動の方針・位置づけを明確にし、組織的に様々なサポートを行い、またそれを地域の人々に知ってもらうことも大切である。

（大学） 学生のボランティア活動支援につきましては、不十分ではありますが、支援の事務組織も作り、ボランティア活動実践家による講演会等を開催し、少しずつではありますがボランティア活動の裾野も広がりつつあります。

産学官連携

（委員） 循環社会形成基本法ができ畜産廃棄物の処理が大きな問題になっているが、農業・畜産に限定したら循環型にならない。循環社会形成においては、様々な社会のセクターが全部関わり合って初めてシステムが機能するので、大学が中心になって体系的な技術体系を作っていくことが大切である。

また、地域でしかナショナルなモデルができないという意味では、鹿児島モデルがナショナルとして通用するのではないか。

（大学） 全学合同研究プロジェクトの一つの「大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行」プロジェクトは、そのような循環社会形成の方向を志向しております。

（大学） 畜産廃棄物の処理については、鹿児島県は大型堆肥化センターを作り肥料にする方向で検討していますが、どのように販売し流通に乗せるかということまでは全く見えていません。畜産廃棄物の処理については、堆肥化以外のバイオガス化利用等エネルギー問題として多面的な捉え方が必要と考えています。

農学部では、ハエの幼虫を使ってフンを分解し、フンを分解して増えた幼虫は非常に高タンパクで魚・家畜・鶏の良質なエサとして使う研究を進めています。

畜産廃棄物のエネルギー化については、鹿児島大学の果たすべき役割も大きいので、積極的に政策提言していくことも必要と思っています。

（委員） 「地域社会への貢献等大学の社会的役割・ニーズが変わってきている」ことについて、どのようにして教官の意識変革を図っているか。

（大学） 社会の変動に伴い大学の社会的役割・ニーズが変わってきていることは、シンポジウムの挨拶等機会あるごとに意識改革の必要性を話していますが、教官がいかに自分のこととして捉えているかについては、更に徹

底していかねばなりません。

(委員) 「鹿児島大学における地域との連携並びに資料集」(資料3、4)に大変素晴らしい、多くの連携・実績がある。新聞等による成果報告だけでなく、多様な手段・方法により、シンポジウム等開催前に県民・市民に紹介すればもっと大学が身近になる。

また、学術論文等については、その中のエキスの部分を県民・市民にわかりやすく紹介してはどうか。



(大学) 平均して月1回のペースで学長の記者発表・会見を行っています。また、ホームページに研究者のプロフィール・研究分野等を内容とした「研究者総覧」を掲載し、キーワード検索ができるようにしていますのでご利用いただければと思います。

大学情報の積極的な提供には努めていますが、提供の方法・手段については今後十分検討いたしますので、具体的な方法・手段等ありましたらご提言いただきたいと思います。

(委員) 産学官にプラスして民または一般市民も入れて連携を考える必要がある。産学官の双方向の中に民を入れることによって、産業界が捉えきれない民のニーズを反映でき、大学の持っているシーズと産業界のニーズがマッチングする。

生涯学習

(委員) 県立高校では、各高校で1回2時間・年間15日の延べ30時間の鹿児島県民大学講座を開講しているが、大学の公開講座はどのような視点で開催しているか。

(大学) 県民大学講座のような系統的なものではなく、各学部ごとにその得意分野について受講対象者のニーズを伺いながら開講しています。

(委員) 公開講座の開催等離島で多くの講座を開催しているが、年間どの程度開催しているか。

(大学) 平成12年度公開講座は、「地域づくりと私たちの生涯学習」「若者の生きがいづくりと地域おこし」の2件を与論町で開催しています。

離島ではありませんが、「老人の看護とリハビリテーション」「口と全身」を那覇市等で開催しています。

また、公開講座の内容につきましては、相手方の要望・意見を聞きながらプログラムを作成しています。

その他、全学合同研究プロジェクト等のシンポジウム等を屋久島等離島で開催しています。

(委員) 生涯学習、公開講座等は新聞社等他の機関も行っている。大学しかやれない、大学以外でやるのが難しい社会サービスは、大学院への社会人入学である。

積極的に推進するとともに地域の文化的な水準の向上に努めていただきたい。

(大学) 社会人受入れは、単に社会人の生涯学習ということだけではなく、社会人が持っている経験・ノウハウは教官及び学生にとっても非常にいい刺激になります。大学院への社会人受け入れについては、今後も積極的に推進したいと思っています。

(委員) 広く多くの方々に大学の取り組みや研究成果報告等を知ってもらうためには、学外に出て交流・PRすることも必要ではないか。

例えば、1月26日に鹿児島市の生涯学習プラザ男女共同参画センターサンエールがこしがまがオープンした。ここは、テレビ会議システムの機能を備え、8公民館をテレビ会議システムでつなげる。8公民館を含め全館で2,000人収容できるので、今後、シンポジウム・講演会等で利用しては如何か。

(委員) 公開講座等においては、一方的な講義だけでなく、実際その場で行う体験型の学習・教育が有効である。また、どのような成果・効果があるかの再評価も必要である。

(委員) 県内の他の大学・短大との連携を進めていただきたい。

(大学) 昨年、県内の13機関の学長等による「鹿児島県内学長等懇話会」を発足させました。

単位互換については、私立と私立の協定締結はありますが、国公私立を交えた協定は締結されていないことから、懇話会では県内国公私立大学間における単位互換について検討するとともに、留学生支援事業について県・市等関係機関に要望書を提出しました。

その他

(委員) 地域との連携は必要だが、地域との連携だけで国立大学が生きていけるかということはある。ローカルな仕事として、マイナーな仕事という意識で入るのではなく、ここでやった仕事がナショナルなモデル、インターナショナルなモデルになるという意識を持って取り組んでいただきたい。

(大学) 平成13年度に設置されます離島医療学講座は、鹿児島の地域性からスタートしています。離島医療学は、離島医療を担う人材を育成するとともに、離島に実習に行くことによって人間性を養うことも目的としています。また、離島医療学は、「地域でスタートしてインターナショナルへ」と鹿児島地域だけでなく東南アジア・中南米等を含む国際離島医療をも視野に入れています。

(委員) ヒトゲノムの解析が進み遺伝子診断治療が急速に進んでいるが、大学での遺伝子治療の研究体制・取り組み、研究費はどのような状況か。



(大学) 遺伝子治療については3年前に遺伝子治療研究会を作り、学部内措置で遺伝子治療研究推進準備室を設置し毎月勉強会を開催しています。現在は、遺伝子治療実施の前段階で、遺伝子の持つ特有な地域性について遺伝子解析・遺伝子診断を行っています。

また、特徴のある研究であれば資金も獲得でき、得意な分野を集中的にやることで資金的にも十分やれると考えています。

(委員) 大型な研究費が文部科学省以外の省庁からも出ている。重要なシーズ、ポテンシャルのある人は多いと思うので、大胆に、積極的に1億円、5億円の大型研究プロジェクトに申請しては如何か。

(委員) 今後大学が発展していくためには、ルールに縛るよりも情報提供・情報公開が非常に重要である。多様なメディアを使って多様な方法で情報公開に努める必要がある。

(委員) 高等学校は平成15年度からの新しい教育課程の導入に向けて試行的に「総合学習」の時間を設けている。大学の教官にお願いする機会も増えるが、お願いに行った時の教官の温度差が大きい。学部ごとに、あるいは大学で外部との連絡・調整の窓口を設けてはどうか。

(委員) 鹿児島大学の理系の学部は全国でも数少ない国語を選択できる大学である。

国語、国語・は全国平均でも大きな得点差がある。国語・受験生より国語受験生の得点が高いため、理科や数学の・まで履修した国語・受験生

が鹿児島大学の理系を受験しても落ちるあるいは敬遠する実態がある。

(委員) オープンキャンパスの開催は大変ありがたく、高校側の方も積極的に生徒を行かせるように努めている。高校と大学の説明会が7月にあるが、この時期はほとんどの高校で補習授業を行っている時期でもあるので、開催時期について配慮願いたい。

(委員) 鹿児島大学のイメージがよくわからない。鹿児島大学は七高を含め100年以上の長い歴史がある。長い歴史の重みを踏まえ、鹿児島大学にふさわしいイメージを作っていただきたい。

(委員) 附属図書館の公開のあり方はどのような状況か。



(大学) 平成12年4月から図書館資料の一般市民への貸し出しを実施し、入館手続きも簡素化しています。平成12年は12月現在で148名の一般市民の方が貸し出しを受けています。

また、玉里文庫等貴重資料の一般公開も実施しており、平成12年度は奄美大島で玉里文庫の貴重書の公開・講演会を開催しました。

「第2回鹿児島大学運営諮問会議」議事要旨については、それぞれの委員に送付し、了承が得られた後に公表することとした。

なお、次回会議は7月頃に開催することとした。

(配付資料)

第2回鹿児島大学運営諮問会議

平成13年度概算要求内示主要事項、平成12年度第一次補正予算決定事項

鹿児島大学における地域との連携並びに資料集(平成11年度)

鹿児島大学における地域との連携並びに資料集(平成12年度)

鹿児島大学概要

鹿大広報(No.154、別冊)

平成12年鹿児島大学の十大ニュース(日付順)

随 想

権利と義務と自由な心

工学部 吉原 進

日本で生活する我々がそれなりの満足感を持って、日々安心して活動できるように、筆者の専門の土木は、自然環境と社会環境に折り合いを付けることを目標としている。ここでは日本社会に必要な要件を考えたい。

昨秋、地元紙に「市民の社会的な義務は、幸福を追い求める権利が確保された後に発生するものである」との識者の声が出ていた。

他者の権利を尊重する前に自己の権利を主張しがちな権利は、要求に転化し、自分の痛みを忌避し、無責任になり易い。社会を構成する市民には、権利や自由があると同時に義務と責任が課せられている。自他共に義務や責任を果たしてこそ、全ての権利や自由が生きてくる。こうして道徳が共通認識として形成され、社会に秩序や正義が生まれる。妥協なき権利の主張がぶつかり合って一つの秩序を生み出すまでに、どれほど大量の血を流したか。彼我の歴史をムダにしてはならない。薬師寺管長の故高田好胤氏が「慈悲だけが慈悲やない。無慈悲の慈悲がある。今の我々の慈悲は無慈悲につながる慈悲ではない。」といわれた。社会には無慈悲さえ必要なのである。権利や義務を超越したこの考えは、欧米風自己中心型の合理主義や強制されたボランティアから醸成されるものではない。

権利と自由を尊重し、請願権と国民投票を保障して市民の政治参加の道を広げたワイマール憲法は、第一次世界大戦後の諸般の事情も重なって、民主主義を否定する方向にしか機能せず、独裁的ナチス政権誕生を許し、破綻した。民主主義に未成熟な国民に超民主的の制度を与え、個を公より優先させた悲劇である。自己決定の自由は、自己破滅の危険性を持つのである。第二次世界大戦後、その反省から、市民の政治参加の道を狭め、自由を規制し、所有権にさえ義務を課すような憲法（ドイツ共和国基本法）を持った。しかし現在のドイツ国民は義務ばかりで、自由のない暗い日々を過ごしているわけではない。生き生きとして自らの痛みを容認する勇気を持って、国

土に見合った環境適応性の高い社会創出や地球温暖化対策に踏み出している。

一方戦前の日本は、ワイマールとは全く逆に特異な国家への帰属義務を優先させ、強権で個を公に埋没させて民意からのブレーキを外し、国家主義的独裁政権を暴走させた。これを教訓に戦後、主権が市民に存する体制に転換したのである。最近の日本では、権利と自由をほしひままに - 特に個人の欲求追求の自由と市民生活を律する自由の区別が付けられないままに - 公共観が薄らいできた。戦前の特異な道徳をあたかも普遍的なものとして誤解して、新しい社会の掟としての道徳さえ疎んじた。日本国憲法が多くの権利を規定して義務をほとんど規定しないのは、市民の自立を前提としているからで、無制限の権利や自由を付与していない。この背景を忘れた識者の声は、益々市民から義務感や責任感を消し去り、日本社会から正義を遠ざける。

両国の歴史からの教訓を、持続的な日本社会を構築する上で活かすには、

- (一) 個を優先させる体制、公を優先させる体制、どちらも社会として好ましい体制ではない。自律した個と責任ある公が互いに独断を排して協力し、批判し合う体制が望まれる。
- (二) 民主主義という器と共に、これを運用する個と公の意識が重要である。批判なしに格付け機関や権威に頼る癖はカリスマを待望し、多様性を認めない客観指向や規格や統一規範の押し付けは虚弱な集団をつくる。

今日、心の時代といわれるが、やすらぎや癒しばかりを求める甘え体質は、国の主権を考える力を薄弱にし、くせ者揃いの国際社会では通用しない。寛容と厳格、扶助と自立、協調と競争、譲歩と主張、忍耐と発憤などを使い分け、無慈悲にして慈悲で、自由な心が必要である。次世代のリーダたる学生は今自らの力で考えねばならないはずである。



留學生日記



「私の国」

法文学部 若林ひろ子

私の国はペルーで、首都はリマです。ペルーは南米の中央西に位置して、太平洋に向かっていています。国語はスペイン語ですが、いろいろな方言があります。ペルーでは三つの地帯があって、海岸、山脈と森林をもっています。気候は所によって違います。たとえば、海岸地帯は温暖な気候です。しかし、冬になると雨が降りますが、かさがいらぬほど少し降ります。山脈地帯は冷たくて、乾燥した気候です。森林は雨がよく降って、暑くて、湿気のある気候です。日本の気候と比べたら日本の季節ははっきりと分けてあります。そして、海岸地帯は日本と違って、雨があまり降らないから、砂漠が多いところです。

日本の人口はペルーの人口と比べるとやく5.0倍です。ペルーの面積は日本の面積と比べると約3.4倍です。

ペルーでは観光する場所がたくさんあります。世界中で一番しられていゝのはインカ帝国のマチュピチュです。マチュピチュはインカの王様が住んでいた場所です。マチュピチュはアンデスの方の山の上に立てられました。マチュピチュは世界の中心にあつて、エネルギーを集中しているところだと言われています。そして、ペルーのアマゾンにさまざまな動物が住んでいます。又、人間はまだ踏んでいない所があつて、野性の動物が自由に住んでいます。ペルーとボリビアの境界で、世界の一番たかいところにあるチチカカという湖があります。

私の国ではよくじゃがいもと肉と魚をよく食べます。日本と違って肉が安く、魚もたくさんとれます。そして、食物の作り方は日本と違ふ点があります。たとえば米の作り方は日本の場合は簡単ですが、ペルーの場合はにんにくとしおを使って作ります。日本は料理の味がうすいですが、私の国の場合はもっと濃くて、いろいろな調味料を使って料理を作ります。



「愛の力」

法文学部 唐 一瑛

両親の望みに従つて成長してきた私は子供には自分の好きな道を歩ませてあげたいと考えたことがありました。私にとって自由はずっと憧れてきた願ひです。いま、まだ両親の娘としての私は結局その愛の束縛から逃れようとひとりで日本にきて自分なりの生活をおくっています。しかし、ラインが母親の優しい声を運んでくるたびに私の心はいつも痛みます。愛の「枷」を脱出しようと思つていた私は、この異国他郷に来た後、やつと両親の愛情がどんなに深くて重いことだと分かってきました。生活習慣の違い、勉強のプレッシャー、アルバイトの苦勞に直面して疲れ果てたときに、両親のささえとはげみを思い出し、私には最大の力を与えてくれました。いま、私は母親から「体につけてね」という短かくてごく普通の言葉でさえをきいても、幸せをつかんだ様な気がします。私はあげられた風のように広げた大空へ自由自在飛んでいても、方向を失なう恐れがないと感じます。それは、私と両親の間に、強く結ばれた愛の絆が存在するからです。



「ブラジルと日本」

梶原 真理

ブラジルは南アメリカにあります。国土の広さでは世界第5番目の国です。アフリカの奴隷、土人、アジア諸国の移民とヨーロッパ人、特にポルトガル人との混血が現在の1億6千万の人口を構成しております。国語はポルトガル語で、国民の大部分はカトリックです。国民は非常に明るく開放的で、宗教的に伝えられている行事の他にリオ・デ・ジャネイロではサンバ、北部と東北部ではフレボと言われる踊りが伴うカーニバル、焚火、田舎の独特な踊りで祝う6月の行事、南地域のワイン祭、伝統的なお祭を祝う事が大好きです。政治的や経済的な問題がいろいろあるけれど、人々の温かさとすばらしい自然に恵まれている国です。

私はブラジルのサンパウロ生まれの日系二世です。幼い頃から日本語と日本の文化を教へてもらいました。家の中では日本語で話します。日本語学校にも通っていました。日本の童話、童謡、遊び、おどりなどを覚えながら育ちました。日本の事はいろいろな人から聞いていましたが、聞いた国のイメージと私がこの一年間生活した国は違いました。一番びっくりしたのは若い人達の生き方、言葉遣いと考え方でした。

確かに日本人は真面目で勇気があるので、国が進んで来たと思いますが、現代のこの新しい世界にも日本の文化がそのまま残つて行くためにみんなで守つて欲しいと思います。

私は日本に留学できてとてもうれしいです。両親の古里に来ていろいろなことを経験して教へてもらつて、各国の文化や考え方がもっと分かるようになりました。これからも日本とブラジルの交際を大事にしたいと思っています。

研究室紹介

法文学部 システム設計研究室（下園ゼミ）

私たち下園ゼミでは、ゼミ生一人一人がそれぞれ個別に研究テーマを与えられています。その主な内容は、GIS（地理情報システム）を活用したエリアマーケティング、データベースシステム+Web技術を活用した情報管理システム（PostgreSQL+PHP, XML+JAVA）、地域内の効率的なデータ配信のためのネットワーク設計（地域IX）、情報端末、ネットワークを活用したマルチメディア・データの配信などです。それぞれのテーマは様々ですが、その研究の基本部分はネットワーク技術についてです。

私たちの研究の独自性というのは、研究を大学、または企業においてすぐに実用できる可能性があるという点です。たとえば、マルチメディア・データ配信についてですが、これは、学長の新年挨拶を今回はじめて学内ネットワークでライブ放送した際、使用した技術です。この技術は、実際に政府や企業で使用されているものです。たとえば、現在ホームページが公開中のインパク・楽網楽座（<http://www.inpaku.go.jp/>）や、昨年行われた九州・沖縄サミットの会議内容の同時通訳放送などでも使われています。また、データベースシステム+Web技術の活用では、法文学部インターネット利用者管理システムを構築しました。この研究によって、現在の紙面での管理システムをネットワークでデータベース化し、Web上から操作することを可能にすることで、業務の簡略化を実現できました。

以上のように、下園ゼミでは実践的な研究を通して、企業にも通用する技術を身に付け、これからますます発展していくであろうIT社会への対応をより一層深めていく方向です。



教育学部養護学校教員養成課程 障害児教育学科

教育学部には、学校教育教員養成課程、養護学校教員養成課程、生涯教育総合過程の3課程があります。養護学校教員養成課程は、障害児教育学科の1学科のみで構成されており、発達障害（知的障害）、肢体不自由、病弱などの養護学校における特殊教育に携わる専門教員を養成しています。

当学科は、4つの学問領域に分かれています。障害をもつ子どもの療育・訓練の方法と教育的研究（治療教育学研究室教授・清原浩）、心理療法や心理査定を中心とした心理臨床的研究（治療心理学研究室教授・久留一郎）、脳から心を探る神経心理学のおよびハビリテーションに関する研究（治療保健学研究室教授・内田芳夫）、そして障害児病理学的研究（3人の非常勤講師）です。さらに、教育実践研究の場として附属養護学校があり、大学と連携して、さまざまな教育、実験、研究がなされています。

学部生は、1学年20名です。大学院には、外国人、現職の社会人を含め、毎年5～6人が在籍しており、活発な研究、臨床活動がなされています。卒業・修了後は、進学したり、学校、病院、福祉関係などへ就職し、活躍しています。

各研究室の大きな特徴は、地域に開かれた大学として、発達援助、臨床援助などの外来サービスを行っていることです。治療教育学研究室では、感覚統合訓練や療育など、治療心理学研究室では、プレイセラピー（遊戯療法）やカウンセリング、そして、治療保健学研究室では、インリアル・アプローチなどを行っています（全て予約制）。また、各研究室では、毎月研究会を開催しており、臨床心理士や養護学校教諭、発達相談員などの卒業後研修の場にもなっています。

（文責：久留一郎）

サークル紹介

柔道部

法文学部 西元 剛

私たち柔道部は、柔道を通じて優れた人格の形成をするということを最大の目的として日々稽古に励んでいます。現在の部員は男子15名、女子5名の計20名で、毎週月曜日から金曜までは午後5時～7時、土曜日は午前10時～12時まで教育学部の武道館で汗を流しています。

部としては、平成9年には全日本学生大会出場し、また、全国国公立大会では毎年ベスト8に入るなどの成績を残しており、現在も全日本学生大会を目標に力を合わせてがんばっています。

部員には高校で実績を残してきた者もいますが、毎年初心者も入部し、経験者や先生に指導されながら日々心と体を鍛えています。

部の雰囲気もとてもよく、厳しさの中にも楽しさがあるという感じでなじみ易いと思いますので、今まで柔道をしたことがない人でも気軽に道場に足を運んでみてください。



邦楽部

箏、三味線、尺八やってみませんか？

理学部 長谷川大輔

こんにちは！邦楽部です！！

現在私達は、部員21名で活動しています。女性も男性もだいたい同じくらいの人数です。部室は自然サークル棟2階にあり、他の部にはない畳とこたつがあります。だから、冬も暖かく、部室で練習もでき、快適に過ごせます。邦楽部では、箏（琴）、三味線、尺八をやります。曲によっては、琵琶や打楽器を使うこともあります。

12月には、定期演奏会があり、皆それに向けて練習していくのでやりがいがあります。定期演奏会では、皆着物を着て正装します。



練習も頑張ってますが、部では、様々な楽しい行事があり、あきなく楽しめます。例えば、部員全員参加のスポーツ大会や、夏には、合宿へ行ったりします。合宿では、海で泳いだり、夜には、スイカ割りや花火をして楽しめます。

ぜひ一度遊びにきてみてくださいね！

鹿児島大学サークル(部・同好会)一覧表

平成13年3月1日現在

文化系				体育系			
No	部名	No	同好会名	No	部名	No	同好会名
1	フロイデ・コール	1	音楽鑑賞会	1	柔道部	1	ゴルフ同好会
2	吹奏楽団	2	フォークソング同好会	2	剣道部	2	ワンダーフォーゲル同好会
3	ポリフォニー・コール	3	キックス	3	空手道部	3	スケート同好会
4	演劇部	4	マンドリンクラブ	4	弓道部	4	サッカー同好会
5	管弦楽団	5	ファイブ・エイセス	5	ボクシング部	5	軟式野球同好会
6	ハーモニカバンド	6	映画研究会	6	少林寺拳法部	6	アイスホッケー部
7	クラシックギタークラブ	7	石笑会	7	合気道部	7	モータサイクル同好会
8	ジャズバンド部	8	ユースホステル同好会	8	サッカー部	8	軟式庭球同好会
9	邦楽部	9	将棋愛好会	9	ラグビー部	9	ウインドサーフィン部
10	児童文化研究会	10	イチムチ	10	ハンドボール部	10	空手同好会
11	写真部	11	奇術同好会	11	バスケットボール部	11	ソフトボール同好会
12	美術部	12	SF&ミステリー同好会	12	バレーボール部	12	硬式庭球同好会
13	E.S.S.	13	野外活動研究会	13	硬式野球部	13	卓球同好会
14	放送研究会	14	第三文明研究会	14	準硬式野球部	14	極真空手同好会
15	マルクス主義研究会	15	釣研究会	15	卓球部	15	バスケットボール同好会
16	社会科学研究会	16	考古学研究会	16	バドミントン部	16	バレーボール同好会
17	法学研究会	17	海洋研究部	17	軟式庭球部	17	スキー同好会
18	教育科学研究会	18	天文同好会	18	硬式庭球部	18	スポーツ愛好会
19	哲学研究会	19	百人一首同好会	19	水泳部	19	中国武術研究会
20	中国・ソ連研究会	20	ニューミュージック愛好会	20	漕艇部	20	自転車競技同好会
21	学生心理学研究会	21	コントラクトブリッジクラブ	21	ヨット部	21	球技同好会
22	地理学研究会	22	マイクロコンピュータ研究会	22	カッター部	22	インラインスケート同好会
23	海外研究会	23	障害児保育研究会	23	陸上競技部		
24	理化学研究会	24	ウォークキャンプ愛好会	24	山岳部		
25	海洋生態研究会	25	漫画同好会	25	体操競技部		
26	生物研究会	26	野鳥研究会	26	馬術部		
27	社会医学研究会	27	地域子ども会研究会	27	自動車部		
28	探検部	28	映像研究会	28	航空部		
29	園芸研究会	29	鹿児島ショパンの会	29	サイクリング部		
30	茶道部	30	I.S.A.	30	舞踏研究部		
31	書道部	31	ウミガメ研究会				
32	華道部	32	小原流華道研究会				
33	新聞部	33	エコロジー研究会				
		34	大川隆法著作研究会				
		35	建築&デザイン同好会				
		36	クイズ研究会				
		37	ゴールドフィッシュダイビングクラブ				
		38	アニメ研究会				
		39	TOEIC・TOEFL研究会				
		40	ロボット研究会				
		41	エコラン研究会				

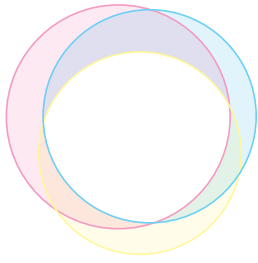
文化系サークル

部 33サークル
同好会 41サークル 計 74サークル

体育系サークル

部 30サークル
同好会 22サークル 計 52サークル

合計 126サークル



新任教官紹介



職 名 教授

氏 名 小 山 次 朗

(水産学部 附属海洋資源環境教育研究センター)

学 位 農学博士

生年月日 昭和27年1月9日

最終学歴 九州大学大学院農学研究科水産学専攻博士課程修了

前 職 瀬戸内海区水産研究所水質化学研究室長

担当科目 水質保全学、海洋環境保全学実習

【抱負】

環境ホルモンをはじめとする化学物質の汚染から海を守るための人材育成と研究を行うつもりです。よろしく御願いたします。



職 名 助教授

氏 名 若 森 実

(医学部 医学科)

学 位 医学博士

生年月日 昭和36年4月17日

最終学歴 東北大学大学院医学研究科博士課程

前 職 岡崎国立共同研究機構生理学研究所 助手

担当科目 生理学

【抱負】

学生に生理学と研究の楽しさを伝えられる様に努めます。電気生理を中心に分子神経生理学が専門です。一緒に出来る事があれば連絡下さい。



保 健 *health*



気 胸 - 特発性気胸について -

保健管理センター 所長 前田 芳夫

時々、保健管理センターには、胸痛と呼吸困難を訴えて、飛び込んでくる学生達があります。彼等の多くは痩せ型のスマートな男子学生達です。話を聞いてみると、何の前触れもなく、突然左側や右側の胸や背中に痛みが起り、すぐによくなるだろうと我慢していたが、痛みや息苦しさがひどくなってくるので、保健管理センターにやって来たと言います。大急ぎで胸のレントゲン写真を撮ってみますと、痛みを訴える方の肺がしぼんでいます。肺を包んでいる胸膜に穴があいて、肺から胸腔内に空気が漏れたため、肺がしぼんでしまったのです。

皆さん方、ご存知のように、私達の肺は、胸膜という薄い膜に包まれ、対をなして、胸の左右に納まっていますが、肺が納まっている胸の内側の壁もまた、全面胸膜に被われています。この肺側の胸膜と壁側の胸膜、それに横隔膜とによって囲まれた空間を胸腔と言い、胸腔は陰圧になっています。このため、大気中ではしぼんでしまう肺も、胸腔内では気管から空気を取り込んで、胸腔内一杯に膨らんでいます。そして、この胸腔は肋間筋と横隔膜の動きによってその容積を変えますから、肺もまた、それに連動して、気管から空気を取り込んだり、押し戻したりして、大きく膨らんだり、小さく膨らんだりしています。これが呼吸です。

私達は、このようにして呼吸をしていますから、何らかの原因で胸膜に穴が開いたりしますと、たちまち空気が胸腔内に流れ込んできて、胸腔内の陰圧は消失し、肺

はしぼんで息ができなくなってしまいます。また、肺とは異なり、胸膜には知覚神経が走っていますから、同時に痛みも起こります（肺には知覚神経がありません）。このような状況を気胸と言い、外傷や病気が原因となることもあります。一方、これといった病気もないのに、突然発症してくる場合もあります。これを特発性気胸と言います。特発性とは原因が分からないということです。どうしたことが、特発性気胸は若い痩せ型の男性に好発します。そして、その原因の多くはブレブ(bleb)という胸膜内にできた肺外嚢胞の破裂によるものですが、通常、ブレブがあっても自覚症状はありません。また、胸のレントゲン写真を撮っても分かりません。特発性気胸が起こってはじめて、ブレブの存在に気付くのが普通です。

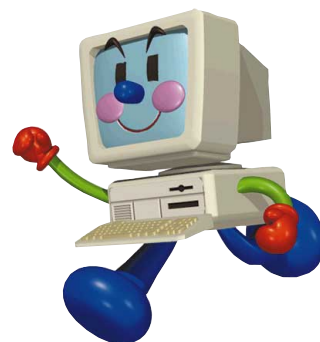
特発性気胸は、咳や運動が誘因となって発症します。左右の肺に同時に起こることもありますが、多くは片側性です。自覚症状は急激に起こってくる胸痛と背部痛、それに呼吸困難ですが、このような症状は気胸以外の病気でもみられますので、鑑別には、胸部のレントゲン写真が必要です。多くの場合、治療を必要としますが、安静で治癒することもあります。しかし、再発を繰り返すようであれば、外科的治療が必要となります。予後は良好です。

予防法はありません。しかし、日頃、健康で痩せ型のスマートな男性に、突然胸痛や背部痛、呼吸困難等がみられたときは、特発性気胸も疑われますので、用心して下さい。

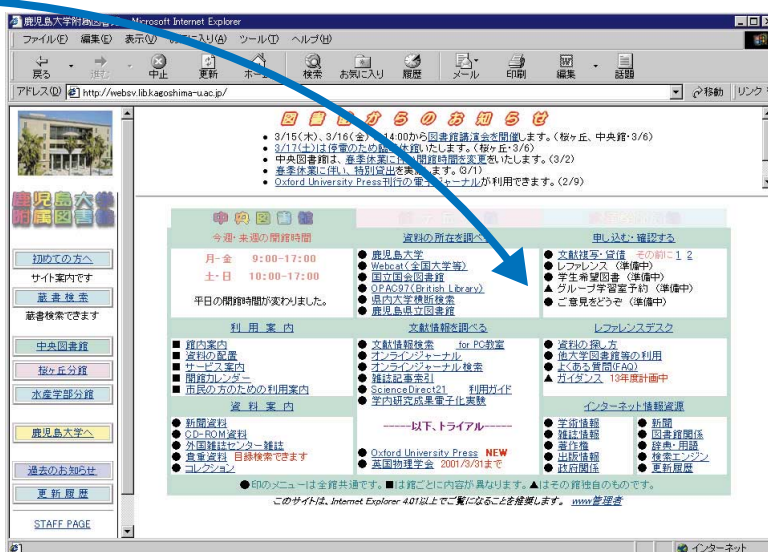
図書館だより

図書館への意見、要望は図書館のホームページからどうぞ

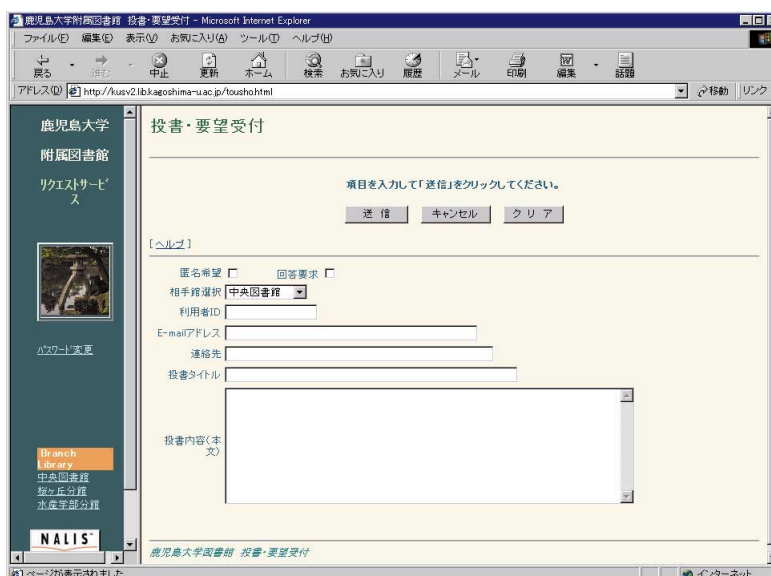
今まで図書館への意見・要望などは、1階PACSコーナー横に設置してある投書箱へ投函していただいていたのですが、4月からは図書館ホームページから出来るようになりました。多くの方々のご意見をお待ちしています。



【鹿児島大学中央図書館ホームページ】
 ここ(ご意見をどうぞ)をクリック



書込んで送信して下さい。



行事 schedule 予定

4月

- 4月4日 鹿児島大学入学式
- 5日 新入生オリエンテーション
- 12日 前期授業開始（共通教育）
- 13日 大学院連合農学研究科入学式
- 16日 ~ 25日 学生定期健康診断

7月

- 7月23日 前期授業終了（共通教育）

8月～9月

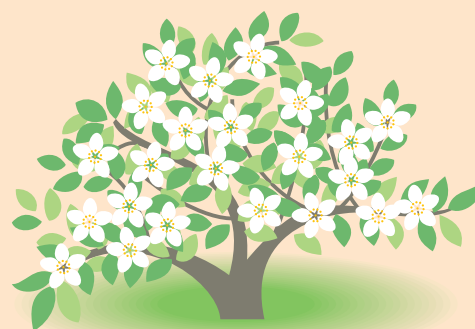
- 8月1日 ~ 9月30日 夏季休業（共通教育）

5月

- 5月7日 ~ 10日
学生定期健康診断（H12.13入学者）

6月

- 6月7日 ~ 8日
第36回国立大学歯学部長・第34回国立大学歯学部附属病院長合同会議



編集後記

21世紀を迎え様々な意味で大学も時代にあった形に改革を進めなければなりません。大学からの学外へ向けた情報発信もこれまでの紙に印刷された形の「鹿大広報」に頼るのではなく、インターネットを介した大学のホームページを利用した情報発信も進められてきたところです。しかし、鹿大広報は発行経費との兼ね合いもあり、現状では年間3回の発行体制が採られてきました。3回のうち2回は「新入生の向け」（毎年4月発行）と「定年退官者の挨拶」（毎年2月発行）が中心となっており、鹿大広報が学外へ向けた情報発信源となっているとは言えない状況にあります。ホームページを利用した情報発信に関しても、ホームページの更新には相当な労力を必要とします。このような作業を単なるボランティアに頼ったままで実施

して行くことには限界があります。

このような状況に鑑み、大学からの情報発信 - より広い意味での広報活動 - を如何に進めるべきかについて議論を始めたところです。そのためには、鹿大広報が学内で教職員、学生に親しみを持って読んで頂ける内容・企画とすることはもちろん、一般市民からも親しみを持って読んで頂ける編集へと大きく変身して行かねばならないと考えます。

今後、様々な観点から学内諸兄の御助言、お知恵をお借りしなければならぬ問題が多々現われてくると思われませんが、この場を借りて御協力をお願い申し上げます。

広報編集委員会委員長 長澤 庸二

鹿大広報 第156号 平成13年4月1日発行
編集・発行 鹿児島大学広報委員会

本誌に関するご意見・ご感想を下記までお知らせください。
住所：〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21番24号
電話 099-285-7025 FAX 099-285-7034